第38回くりくり少年野球選手権大会決勝

ちびっ子ミニ甲子園大会

高洲コンドルス追撃振り切りV

本県20年ぶりの優勝旗を握った高洲コンドルス

第38回くりくり少年野球選手権大会決勝が8月11日、埼玉県の西武プリンスドームで行われ、千葉市美浜区の高洲コンドルス（香川達弘監督、川野翼主将）が妻田ブルーフォックス（神奈川県厚木市）の追撃を1点差で振り切り優勝した。

同大会は関東を中心に北海道、宮城、愛知など広範な地域の予選大会を制した強豪38チームが参加する〝ちびっ子ミニ甲子園大会〟。トーナメントで1回戦から決勝まで熱い戦いが繰り広げられた。本県勢の優勝はみつわ台スラッガース以来、実に25年ぶりの快挙だ。

◇2回戦　高洲コンドルス14－0南小スポ少団ムサシ（埼玉）　◇3回戦　高洲コンドルス9－3国分寺ファイブスターズ（東京）　◇準々決勝　高洲コンドルス6－5さいたまスターズ（埼玉）

◇準決勝

調布サンライズ（東京）　0000100＝1
高洲コンドルス　4000100＝5

▽バッテリー＝金谷－瀬尾（調）吉田　渉、吉田才蔵、佐々木　遼－三谷理心（高）

▽3塁打＝佐々木　遼2本（高）

▽2塁打＝川野　翼3本（高）山崎（調）

決勝進出がかかる大事な一戦。1点差の対さいたまスターズ戦でのホロ苦さを教訓にしてか、コンドルスは立ち上がりから気合いを入れた。1回表、調布の1番山崎に右中間2塁打の〝洗礼〟を浴びたが動じることなく打者3人に抑え、その裏、コンドルスは「こちらも」とばかり1番三谷がセンターへお返しのヒット。2番長山陸斗がきっちりバントで送ると3番吉田（渉）がライト前、4番川野はレフトへ2塁打。3番佐々木は4球目をライトへ3塁打と、長短打のつるべ打ちで一挙4点を先制し、試合の明暗を分けた。

調布は5回表、内野ヒットのこの回先頭6番二次が生還して1点を返した。コンドルスはその裏2死から4番川野5番佐々木の連続長打で許した1点をすぐに取り返した。コンドルスの投手陣は絶好調で調布打線を26人、散発3安打におさえた。それにしてもコンドルスは4番川野の3打数3本の2塁打、5番佐々木の3打数2本の3塁打は目を見はらせるものがあった。

◇決　勝

妻田ブルーフォックス　0022100＝5
高洲コンドルス　5100000＝6

▽バッテリー＝西－柴（妻）吉田　渉、佐々木　遼、吉田　渉－三谷理心（高）

▽本塁打＝山崎大輝（高）

▽3塁打＝白川（妻）

▽2塁打＝三谷理心、長山陸斗、川野　翼（高）

妻田ブルーフォックスは準決勝の対田富クラブ戦で、山梨県の強豪を22－5で一蹴。ピンチのときも粘り強さを見せて決勝へ駒を進めたチームだ。

コンドルスは立ち上がり、そのブルーフォックスが肝（きも）を縮みあがらせるような猛攻を仕掛けた。こんな展開なのだ。

1回表2死後、ブルーフォックスの3番柴、4番白川に連打されたが、後続を三振にとったコンドルスはその裏、1番三谷が3球目をレフト越え2塁打。2番長山は7球目をこれまたレフトへ2塁打。3番吉田（渉）の内野ゴロが2点先取のエラーを誘い、4番川野が4球目を左中間へタイムリー2塁打。このあと2死となったが8番山崎が2B－0Sからの3球目をレフトへ2ランホームラン。長打4本で一挙5点。

2回裏にも三谷、長山、川野のヒットで追加点。あまりの猛烈パワーぶりに「この先どうなるのか」と思わせたがコンドルスの攻撃は、このあとパタリと止み、毎回凡退を繰り返し、ヒットは6回裏、7番山崎の1本だけだった。

対するブルーフォックスは打線にはこちらも「自信がある」と、すばらしい粘りを見せた。3回表、四球の3番柴が4番白川のレフト越え3塁打で1点を返し、5番西もレフトへタイムリーヒット。4回には1番杉村、3番柴を2、3塁に、4番白川の打球がエラーを誘って2点を加えた。

さらに5回表、ヒットの先頭6番一色が生還して5点目をあげ、1点差へと詰め寄った。あわや「逆転劇もあるか」――にわかに緊張が高まったが、コンドルス投手陣も快音が消えれば「ぼくらが踏んばらなければ」と気迫のピッチングを見せ、初回の貯金を崩しながらも貴重な1点差を守り切った。